



野崎茂学長は式辞の中で、「高い専門性を身につけ、豊かな人間性を育んでください。高校までの基本を学ぶ『学習』から、学び修める『学修』へ。さらに自由な形を新たに創造する次の段階を目指してほしい」と、希望に胸を膨らませる新入生に呼び掛けました。続いて派遣留学などで提携するアメリカ、ロシア、中国、韓国、

平成31年度の入学式が4月3日、本学体育館で行われ、新入生313人（国際学部国際文化学科124人、経営情報学部経営学科104人、同学部情報システム学科85人）が、本校みずき野キャンパスで新しい学生生活をスタートさせました。

平成31年度入学式 晴れやかに313人



高い専門性を身につけ 豊かな人間性を育もう

カナダの5大学から寄せられた祝福のメッセージがスクリーンで紹介されました。

在学生を代表して情報システム学科の亀井華菜子さんが「新たな環境に不安を抱えていると思いますが、大学生活を楽しもうという気持ちで臨んでください。自分で考え行動し、人との繋がりを大切に、充実した学生生活を！」と歓迎の言葉を贈りました。

最後に新入生を代表して国際文化学科の坂爪知香さんが「大学の4年間を有意義なものとするために、知的好奇心と探求心を持ちながら、世界の問題を解決する術を模索していきます」と力強く抱負を述べました。

式を終えてガイダンス会場へ向かう新入生を待ち受けていたのは、サークル加入を呼び掛ける先輩たちの長い列。演劇部、ゴルフ部、Ecoサークルなどのチラシを受け取る新入生も、勧誘攻勢に驚きの表情でした。



CONTENTS

2~5面

平成31年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉
両学部長のメッセージ

オープンキャンパス案内 湧源

6・7面

OMO Niigata Vol.2
上越宇津保プロジェクト
小出商店街活性化事業
社会連携センター発足
支え合いワークショップ

COC+国際交流事業

8・9面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告
(10・11面)
学内合同企業説明会
青少年のための科学の祭典出展
柴山文科相を表敬訪問
平成30年度就職先一覧

教員の活動

12~16面

平成30年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
退職教員あいさつ
卒業にあたって
JABEE認定23人に修了証書授与
特別表彰 式典スナッパ



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



LINE@
@nuis-line3111
LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録



Twitter
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

平成31年度

第26回

入学式

式 辞

新潟国際情報大学
学長 野崎 茂



か。

国際学部国際文化学科では北東アジアやアジア太平洋地域などの国際社会の理解と英、露、中、韓を中心とした外国語の習得を通じて、地域ならびに国際社会の平和や真の発展のために

貢献できる人材の育成を目指します。

新入生の皆さん、本学への入学おめでとうございます。本学教職員を代表致しまして皆さんに心からお祝いを申し上げますと共に歓迎致します。

経営情報学部経営学科では情報システムを使いながら、より効率的で効果的な経済活動や企業経営を実現するための知識を学んで行きます。同情報システム学科では情報システムの機能と仕組みを修得し、これを使いこなす知識と技術を身につけて情報社会の発展に貢献できる人材を育成します。

私たち教職員は皆さん方がそれぞれの志を全うできるよう、そして「国際化、情報化の社会の中で高い専門性を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え社会に貢献できる人材」に育って行くよう全力を尽くします。

ところで芸事や武道の稽古や修行などではよく「守破離」という言葉が使われます。ご存知の方も多いと思います。世阿弥

が能の修行について語った教訓とか千利休など茶人が語った教訓とか言われているようです。「守」は基本を忠実に学び、その次に「破」ということで学んだ基本を自分なりに変化させ自分の形を身に付ける。それには一旦基本を壊してみたり、見直してみること必要かもしれません。そうした後の「離」の段階で基本から離れて自由な形を新たに創造する。このようにステップを踏みながら、思考しながら上達することを目指します。

これまで皆さんは高校までの段階で、先人の教えを忠実に学び習うことに努めて来ましたが、「字を写すは、此れ是れ学なり」という言葉もあります。手本を写すようにして学び習う、「学習」です。もちろんこれからは基本を学び習い続けることは必要です。ただ今回皆さんは大学に於いて高等教育を受けるという選択をしました。大学では是非次の段階に移っていただきたい。先程の言葉で言うところの「破」の段階です。基本を自分なりの形に変容させて行くのです。そのためには自ら徹底的に考え抜かなければなりません。このため大学では学び習うという漢字表記「学習」が、学び修めるという「学修」に変えて、使われることとなります。そしてその次の段階、自由な新たな形の創造まで辿り着けるかどうかは皆さんの努力次第です。

この大学での学びの際に皆さんはパソコン

ンやスマホを今まで以上に多用することになるのではないかと思います。これらの機器は勉強のためどころか、私たちの日常生活に不可欠の道具となっております。ただこの便利極まりない機器ですが、一方でその弊害も指摘されています。インターネットを活用することによりいろいろな情報に容易にアクセスできるのみならず、いわゆる「コピペ」による安易な引用が可能になります。これはただ単に既存の知識を「写し取る」、「真似る」だけに過ぎません。大学で学ぶということは外から取り入れた色々な知識や情報を自分の頭の中で整理し、考えて組み直し繋げてみる、自分で体系化してみる訓練をするということになります。

また皆さんはパワーポイントというソフトを使ったことがありでしょう。これらの授業でも多用することになると思います。このソフト、短時間でプレゼンテーションをする、あるいは相手や聴衆を説得するためには極めて有効なソフトです。極端な言い方をすれば、次から次へと場面を転換させることによりスピーカーは受け手に疑問を抱く暇を与えずに自分の思うような論理展開を一方的に、いわば直線的な一次元の論理展開をまっしぐらに推し進めることを可能にします。

大学で学ぶということは、検索エンジンによる情報探知や他人の業績をただなぞるだけで済ませることではありません。デジタル機器の画面だけで得られる、通り一遍の、言わば一次元、二次元の世界に留まっていけないのです。そうした世界で

規模、同期生のみならず先輩、後輩も含めた強力なネットワークを構築することが出来る適正な規模なのではないでしょう

学習から「学修」へ

得られる安易な答え探しに没頭することではなく、自分の経験、他者の経験を取り込み、相手の、あるいは第三者の意見に耳を傾け、議論することにより、三次元、四次元、n次元の錯綜した世界の中で、時間を超え空間を超え論理を、推論を展開していくのです。

そのために極めて有効な手段を皆さんに一つ伝授しましょう。それは図書館を活用するということです。本学の図書館の特徴を簡単に紹介してみしましょう。開学時の蔵書は2万8千冊強でしたが、現在のそれは13万冊を優に超えております。最近では年間約3千5百冊増加していますが、その内訳は専門学術書のほかに歴史、芸術、文学など、大学生として身に付けておくべきいわゆるリベラル・アーツに関わる書籍に重点が置かれております。本学図書館は、

万巻の書は庫にあり

すが、いるというこれまでの経験と、それに対する大学側の対応について知っておいていただきたいからです。休退学に至る

「図書」も「情報」の一種であるという思想の下、ICT情報施設 (Information, Communication, Technology) との複合施設として設置されております。つまり情報センターの中に図書館があるという位置付けです。これを差配するのは両学部の教員と職員によって組織される情報センター運営委員会です。教職員はここで連携して学生の学修支援や教員の研究支援など全学的なニーズに対応しています。図書購入に当たっては学生の要望を募ったり、情報センター運営委員会による選定、教員による選定、学部別重点図書選定、図書館司書による選定などを考慮したうえで購入しております。

ます。もちろん図書費予算は十分に潤沢です。利用は学生、教職員に限らずご父母、ご家族、あるいは近隣住民も可能。開かれた図書館を目指しております。まさに「万巻の書は庫にあり」です。是非本学図書館に直接そして頻繁に足を運んでください。私たちの大学は1学年300人強の小規模な大学です。そしてその分学生間、教職員間の結束力の強い、お互いの顔の見える、面倒見のいい大学です。こじんまりとした、言わば塾のような大学です。ここで敢えてこういうことを申し上げましたのは、当初期待に胸を膨らませて入学しながら途中で休退学する学生が、ほんの僅かで

原因は勉学意欲喪失や経済的理由など種々あるでしょう。後ほどガイダンスの中で説明がありますが、ゼミなどの担任教員、キャンパスライフ支援委員、学生支援センター職員、外部専門家などいづれもが親身になって相談に乗ります。問題解決のために一緒にあって当たります。休退学は自分自身や周りの方々ととの損失だけではありません。社会にとつての損失です。経済的な問題への対策として本学では然るべきセーフティネットも用意致しました。不幸にして途中で家庭の事情の変化で勉学の継続が難しくなった場合にもご相談下さい。勉学意欲を持った学生が経済的事情だけで辞めなければならなくなることを何とか避けたいと、父母会のご尽力で一定の条件を満たすケースについては支援するという本学独自の制度も数年前に設けました。どんな事態になっても勉学意欲は持つていてください。一緒に悩み、相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

私の抱負



新入生代表
国際文化学科 1年
坂爪 知香

人間力を高める

4年間に

桜の花が次第に咲き始め、新潟でも春の訪れを感じるようになりました。

本日は私たち新入生のために、このよう

な素晴らしい入学式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉や、私たちを支え、応援してくださった家族や周りの方々にも、心より御礼を申し上げます。

近年、地域社会においてもグローバル化が進み、訪日外国人も増加しています。さらに、人工知能が発達し、人間の働き方は大きく変わろうとしています。このような国際化、情報化社会で生きる私たちには、異文化を受け入れる多様性、外国人とコミュニケーションを交わす力、人間ならではの創造力・協調性・表現力を高め、国や地域、世代を超えた多くの人と関わり、そして情報を上手く活用する力が求められると

私は考えます。これらの力を、知識・経験と共に豊富な先生方から教えをいただきながら、友人と共に向上させていきたいと思えます。

また、勉学だけではなく、サークルなどの課外活動や学校行事にも積極的に励み、様々な人と接することで自身の人間力を高めていきたいと考えています。

この新潟国際情報大学で過ごす4年間に有意義なものにするために、知的好奇心と探究心を持ちながら、持続可能な開発目標を基に、まだ解決されていない世界の問題を解決する術を模索していくことをお誓いし、新入生代表の抱負とさせていただきます。

最後にになりましたが、ご多用中にも拘わらず本日ご列席を賜りましたご来賓の皆さまには教職員一同心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。

歓迎のことば



在学生代表
情報システム学科 2年
亀井 華菜子

大学を楽しむ心 大切に

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。また、御臨席いただきました多数の保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。皆さんの入学を在学生一同心から歓迎いたします。

さて、新入生の皆さんは、新潟国際情報大学の学生としてこれからの4年間の大学生活を送ることになります。今日はその第一日目です。今のようなお気持ちでしょう。わからないことが山ほどあり、新たな生活・環境への不安など様々な不安を抱えている方もいらっしゃると思います。しかし、大学は端的に言えば『楽しむ』場所です。勉強や研究、クラブ活動など大学生活には『楽しむ』時間がたくさんあります。もちろん、大学の外から『楽しむ』ものを見つけてくるのもいいと思います。私はそういった『楽しむ』ことを糧にして過ごしてほしいです。ですから、今からでも構いません。「大学生活を楽しむぞ」とい

う気持ちでどうか臨んでみてください。また、自分はこの大学生活の最後にどうなっていたいのか・それまでに何をしなければいけないのかを明確に把握し、行動した上で全力で楽しんでください。

前置きが長くなりましたが、これからの大学生活を送る上で大切なことを二つお伝えたいと思います。一つ目は、「自分で考え、自分で行動すること」です。大学は高校とは違い、自分で考え判断をしなければいけないことが多くあります。また、大学は自由です。この自由の中には選択肢が数多くあります。そのため、自発的な思考・行動を要します。ところが、この選択肢が多いことに気づかぬまま大学生活を過ごしてしまう学生が大勢います。ぜひこの言葉を常に頭の中に置いておくてください。



祝電

順不同

日本私立大学協会 会長	大沼 淳様
新潟県 知事	花角 英世様
新潟市 市長	中原 八一様
新潟商工会議所 会頭	福田 勝之様
セコム上信越株式会社 代表取締役会長	野沢 慎吾様
株式会社日本ドリコム 取締役社長	小林 淳一郎様

い。そして、大学の外へ足を進め、行動の幅を広げることをお勧めします。

二つ目は、「人との関わりや繋がりを広げること」です。もし皆さんが困難に当たった時、何か協力して欲しいとき、誰かと繋がってれば助けしてくれる人が必ずいます。また、人との関わりを大切にしていれば、自分だけでは叶えられなかった体験をすることもできます。人と関わることは、いいことだけではありません。悪いこともあるかもしれません。ですが、最後に自分を成長させてくれるのは人との関わりや繋がりであります。恐れず、積極的に関わってみてください。

最後になりますが、私は皆さんにこの大学を好きになってもらいたいです。4年間という中で楽しいことがある反面、困難に立ち向かわなければならぬこともあると思います。そんな時でも胸を張って新潟国際情報大学が好きと言える学生になってもらいたいと思います。これからの4年間の学生生活が充実したものになることを願います。歓迎の言葉とさせていただきます。

OPEN CAMPUS 2019

オープンキャンパス2019

高校生はじめどなたでもご参加できます!

1回目

7/14日

10:20▶15:30

2回目

8/4日

10:20▶15:30

3回目

9/1日

10:20▶15:00

4回目

12/8日

13:15▶16:30

無料 学食体験

無料 送迎バス 運行

(1回目) 7/14日
(2回目) 8/4日

会場 新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み 本学ホームページまたは下記までお申込みください。

お問い合わせ先 **入試・広報課** 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL 025-264-3777(直) FAX 025-264-3780

E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp

※時間やイベントについては、変更になる場合があります。最新情報は本学ホームページをご覧ください。

国際学部



佐々木 寛 学部長

てください。これからみなさんが出逢う世界は、これまでにないほどずっと大きな世界です。また、「こんな程度だ」と思っていた自分よりもはるかに大きな自分に出逢えると思います。日本の若者の多くは、自分自身で自分の人生を小さくしてしまっています。それは、長い期間、学校でくり返し「自分がいかに無力であるのか」を教えられるからです。けれども、君たちはまだ

間や先生にだまされてはいけません。大学は、生きる上で大切な価値を学ぶだけでなく、新たな価値を創り出す場所でもあります。新しい価値を生み出すためには、既存の価値を一度疑ってみなければなりません。そしてこのように「懷疑」し、「創造」するためには、それに持ちこたえるだけの「自信」が必要になります。大学での学びは、それを可能にするでしょう。卒業時にまった

ようこそ。

狭い世界観を捨て 創造する自信を

この大学でみなさんと人生の貴重な時間を共に過ごせることを嬉しく思います。大

人生を始めたばかりで、本当は無限の可能性を秘めています。「常識」をふりかざし、人間の無力を説く大人や世

今は凝り固まった頭のしがらみを、柔らかに解きほぐしておいてください。

間になった
く違った人
間になった
いる自分を
想像して、

経営情報学部



小林 満男 学部長

いることをぜひ文章で記録してみてください。その思いは在学中に何度か書き換わるかもしれませんが、自分の成長だと思つて時々振り返ることをおすすめします。

生涯にわたり元気で幸せに生きていく上で大事なことのひとつは、永遠に生きていると思つて学び続けるということです。本学は、地方の小規模・私立大学ですが、多彩な経験を有する研究者

つけるには恰好の環境にあります。

ところで二宮金次郎をご存知でしょうか。背負っている柴・薪を教科書の詰まったりユックに、手に持っている本をスマホに置き換えれば、皆さんは

現代の二宮金次郎と言えるかもしれません。彼は他人に頼まれて柴・薪を運んでいただけではなく、入会地で入手した柴・薪（換金商品）を販売する事業家でした。皆さんは、スマホを自在に

学び方と学ぶ習慣を身につけよう

初心忘れず、と申します。人生の節々に強く思ったことを温め、育てていけば夢は実現により近づいてきます。入学した今思つて

や企業等での豊かな実務経験を有する教員も多く、学び方や学ぶ習慣を身に

何を目指しますか。

学び、リユ
ックに教科
書（知識）
を背負つて

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 西山 茂

旅立ちのときである。大学生には「巣立ち」という方が的を射ているかもしれない。中には苦労して社会に飛び出していく学生もいるだろうが、多くの学生は今まで保護者の庇護のもと「ぬくぬく」とした生活を送ってきたのだと思うが、これからはそうはいかない。様々な雨嵐を自分の力だけで乗り越えていかなければならない。その覚悟が必要である。よく「アルバイトをしていたから、社会のことはわかってる」という学生がいることを耳にする。しかし、アルバイトで経験したことは、これから経験することのほんの一部であることを肝に銘じておく必要がある。

「褒めて伸ばす」という言葉がある。この言葉を否定はしない。おそらく小学生までは、重要な教育方針であると思う。確かに、褒められて悪い気はしない。しかし、自我が確立し、多くの知識を身につけ、経験を積んだ大学生や社会人には全面的に適用できる言葉ではないと思つている。

怒るというのは、自分と同じことができない（しない）ときに生じる感情だそうである。ある目標に向かってチームで仕事をしているとき、自分と同じようにしてくれなかったら、「怒り」が生ずる。

「怒る」のはそれだけ真剣に仕事に取り組んでいるからである。仕事をしているとき「怒られる」のは極めて日常的であると思つて欲しい。また、人間は（人間だけではなさそうであるが）失敗から学んでいく動物である。

社会に出て、たくさん失敗して、たくさん怒られて、一人前になっていって欲しい。

小宮山研究室・上越宇津俣プロジェクト



地元小学校でのワークショップの様子

私たち小宮山研究室では上越市宇津俣地区でプロジェクトを行っています。この地域は16世帯、高齢化率約40%の

山間地集落に滞在2週間

山間の小さな集落ですが、20年以上前から農業法人化し、6次産業化、農業ブランド化など先進的な取り組みを次々と行っています。

Instagramで販促活動支援

私たちは地域の産物の販売促進のために、2週間ほど滞在して地域の方にお話をお聞きし、イベントにも参加させていただきました。その結果、若者への情報発信が課題だと考え、Instagramでプロモーション

情報システム学科

4年 井上友二
4年 本間銀河
4年 野股克也

いうことを実感しました。

しさを知り、広報活動では何よりも「理解すること」が大切だと

ヨンを行うことにしました。その一環として地元小学校で「Instagram映え」する撮影のワークショップを開催しました。この活動を通してプロモーションや人に伝えることの難

小出商店街活性化事業

コースターづくりで意識改革

「商店街にもっと目を向けてもらうにはどうすればいいのか」。そんな課題に対して私たち「キミノデザイン製作所」（学内サークル）は、昨年8月から魚沼市で小出高校の生徒さんや地域の方々と「小出コースター」の作成に取り組んでいます。

小出コースターとは、私たちのワーク

キミノデザイン製作所



勢ぞろいしたサークルの仲間たち

昨年11月10日の「魚沼職人大学学園祭」、2月10日の「魚沼国際雪合戦」でワークショップを開催しましたが、新年度以降も新たな仲間を加え長期的に継続していく計画です。

情報システム学科

4年 齋藤 叶
3年 岡田 薫

2月9日、10日に本学国際交流センターで開催された「OMO Niigata Vol.2」に参加しました。OMOは「One for a Million a Million for one」の略称で、主に公務員が参加する研究会です。チームに分かれて、解決したい社会問題に取り組みNPO（非営利団体）を、

OMO Niigata Vol.2

2日間で立ち上げるところまで考えました。私たちのチームは「思い出のある建物が簡単に壊されない世界」の実現を考え、周りにある残したいものを登録して共有できるアプリを提案しました。必ずこのNPOを設立して私たちの夢をかなえる、そんな希望が

建物保存アプリを提案

持てた2日間でした。社会人として意見を交わし自身の考えを発信していくことは、今後の大学・社会生活にも大いに活かせる経験であると感じました。



研究課題についてチームで話し合う筆者(中央)

(情報システム学科
3年 星野 裕太郎)

支え合いワークショップ



トレーニング器具について説明するフィットネス研究部員

3月17日、本校みずき野キャンパスの体育館で本学、新潟看護医療専門学校、地域の福祉関係企業、行政の方々の協力で、「健康づくりイベント」を開催しました。このイベントは昨年6月のワークショップで提案されて企画したもので、健康に関心を持ち、運動するきっかけとなるプログラムを心がけました。

新潟看護医療専門学校による健康チェックや健康体操、西地域保健福祉センターによる健康講座（新潟大学の学生

健康体操講座に 高齢者ら55人参加

も協力）、にいがた骨髄バンク応援団のブース、みずき野会によるカーリンコン（カーリングに似たゲーム）、そして本学フィットネス研究部によるトレーニング体験を行いました。小学生から高齢者まで地域の方々55人が参加して、会場は終始活気にあふれ、大きな手応えを得ることができました。

（情報システム学科

2019年3月卒業

小池 優太

地域と大学を結ぶ

社会連携 センター発足

4月1日から新潟中央キャンパスにおける「エクステンションセンター」を発展的に改編した「社会連携センター」がスタートしました。大学、法人側双方で議論を重ね、昨年9月の理事会評議員会で承認をいただき、実現したものです。

大学はもともと社会との接点を持った存在であり、

教育、研究の成果を社会に還元する責任があります。新潟国際情報大学としても2018年4月に経営情報学部をスタートさせ、今年6月創立25周年を迎えます。いわば「第二の開学期」といふべき時期にあたって、改めて社

4月新潟中央キャンパスで始動

（学）新潟平成学院 理事長 星野 元

会貢献、地域貢献に本腰を入れるべきと考えました。

センター長は森邦雄副理事長にご尽力をお願いし、運営委員会委員には産官学各界から経験豊富な方々に就任していただきました。

「多様な個性」や「個性」が私立大学の特徴の一つに挙げられます。社

会連携センターの活動は、そうした特徴を伸ばし、併せて本学の「ブランド力」の向上に寄与するものと期待しています。

教職員はじめ在学生、卒業生の皆さんのご支援を宜しくお願いします。

COC+国際交流

COC+（文科省が推進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）の一環として行う国際交流事業は、今年度で4回目を迎えました。海外の提携大学（アメリカのセントラルミズーリ州立大学、ロシアのウラジオストク国立経済大学、中国の北京師範大学、韓国の慶熙大学、カナダのアルバータ大学）の教員と学生合計22人に加え、

海外5大学の22人が来校

新潟市内巡りで魅力を発見



新潟市内での酒蔵見学

新潟県立大学及び事業創造大学院大学の留学生とともに交流を行いました。

提携大学の一行は、昨年11月19日から24日まで本学語学クラスの授業を見学、新潟県庁を敬訪問、また歓迎会では、中国、韓国の総領事館関係者をお招きし、交流を深めました。

22日には彌彦神社参拝、23日は市内見学で酒蔵の今代司、新潟市歴史博物館、旧小澤家住宅などを巡り、本学の国際交流センターで開催した交流会では、市内の印象などについて発表して頂きました。提携大学の学生からは初めて体験した新潟の「魅力」について、新潟在住の留学生からは「再発見」があったなどのコメントがありました。

5カ国で異文化を体験

アメリカ

私たち17名は8月22日から12月7日まで、アメリカ合衆国のセントラルミズーリ州立大学で学んできました。私たちは簡単なテストの後、いくつかのクラスに分けられました。

混合クラスで英語力アップ

国際文化学科3年 赤川 万里慧

授業ではリーディング、ライティング、文法、さらにアメリカの文化、アメリカの歴史、日米関係について学びました。私のクラスはサウジアラビアや韓国からの留学生との混合クラスで、期せずして英語をセカンドランゲージとする話者の英語に

韓国

私たちは韓国留学チームは、ソウルにある慶熙^{キョウシ}大学の国際教育学院で学びました。午前は韓国語の学習、午後は韓国の歌や映画などの文化授業を受けました。午前は外国人の友達と共に授業を受け、午後は

海外提携大学に学生を派遣する「平成30年度派遣留学・夏期セミナー」が実施され、5カ国・5大学へ合計60人が留学しました。昨年8月出発のカナダコースから本年1月上旬に帰国した中国コースまで、1〜4カ月余におよぶ、それぞれの留学体験を報告してもらいます。

慣れ親しむことになりました。はじめは彼らの独特なアクセントや訛りのために、正確に聞き取ることができませんでした。が、何度もやり取りするうちに、彼らの英語を理解できるようになりました。この経験は私が初めてだった私には不安でいっぱいでしたが、ルームメイトとスイートメイトはとても気さくで親切だったの

に英語で話す自信をつけさせてくれました。また、私たちは大学構内の寮で生活していました。部屋はそれぞれルームメイトが一人と、お風呂とトイレを共有する二人のスイートメイトで構成されます。親元を離れて生活すること

本学の学生と一緒に授業を受けました。また中間考査、期末考査ではリーディング、ライティング、スピーキング、文法のテストを受けました。また、慶熙大学にはトウミ制度というものがあり、トウミ制度とは、留学生1人

相互理解生むトウミ制度

国際文化学科3年 竹之内 一菜

で、外国人の友達をつくることもできました。日本人以外にも交流することで、韓国語の能力が向上し、各国の文化の相互理解のきっかけになりました。私たちは大学の寄宿舎で生活していました。部屋には生活に

今回の派遣留学で私たち韓国チームは、韓国語の上達はもちろん、参加者それぞれが、自立して外国人の友達と深く関わることができました。お力添えをいただいた先生方をはじめ、関係してくださ



パレード時にみんなそろって

であまり外に出掛けないので、自分たちだけで国内線の飛行機を乗り継いだり、現地の人と英語で話せるか心配でした。しかし、それはほとんど杞憂に終わりました。私たちはしばしば道に迷い、現地の方に尋ねることもあったのですが、私たちの拙い英語にも懇切丁寧に対応してくださいました。今回の留学体験を通じて皆さんのことを学ぶことができ、また語学面だけでなく人としても成長することができました。本学の先生方やお世話になったアメリカ現地の先生方、一緒に学んだ友人たち、そしてなによりも素晴らしい機会を与えて援助してくれた家族に感謝したいです。

った全ての方々に感謝を込めて、留学報告とさせていただきます。



昌徳宮で(中央が筆者)

海外留学に60人が参加



観光地コーンメイズ(とうもろこし迷路)で

カナダ

ルバータ大学で夏期セミナーに参加しました。

前半は、カナダ・アルバータ州の歴史や習慣について学び、後半は、スピーキングやリスニング、プレゼンテーションを通して英語を学びました。午後は

刺激に満ちた多国籍文化

情報システム学科3年

田村 詩織

な時間を過ごすことができました。

私たちは、昨年8月5日〜9月2日の約4週間、カナダのア

ロシア

私たちは13人は、昨年8月28日から12月27日まで、ロシア極東のウラジオストク国立経済大学で学びました。文法や会話の授業だけでなく、音楽や美術、地理、歴史など幅広くロシアの文化や歴史を教わりました。

当初は全くロシア語が聞き取れず、課題や小テストに追われる日々で、慣れるまでに時間がかかりました。必死に勉強して

休日にはさまざまな所に出掛けました。カフェ巡りをしたり、ロシア人の友達とカラオケに行ったり、初めてスケートをしたりと、ロシアでの休日を満喫しました。特に感動したのはバレエの鑑賞です。有名なチャイコフスキーの「くるみ割り人形」を観て、衣装や音楽、踊りの美しさに言葉が出ませんでした。



トカレフスキー灯台で

辛さ乗り越え成長を実感

国際文化学科3年 朝夷 優花

いくうちに、リスニングの力が伸びて授業での発言が増え、飲食店での会話も苦にならず、楽しく会話ができるようになりました。

辛い経験も沢山ありました。ロシア語が理解できなかったころに財布を落としてしまった時、部屋に沢山のゴミブリが出た時は、非常に辛かったです。

ジを作成しました。

英語の授業は、日本人だけでなく多くの外国人と一緒に受けたので、授業内容と共に彼らの国のことも知ることができて、とてもいい刺激を受けました。授業以外では、ホストファミリーや友達とお祭りに参加したり、観光を楽しんだり、有意義な時間を過ごすことができました。

体験ばかりでした。ホストファミリーは学外で多くのことを私たちに教えてくれる存在でした。興味のあることを聞くとなんでも教えてくれて、すぐに打ち解けられました。わずか3週間のホームステイでしたが、大切な家族ができました。学外でも現地の人に声をかけると、親切に分かりやすく教えてくれました。カナダはフレンドリーで優しくて素敵な人ばかりです。

この4週間で学んだことは大きな人生の財産になりました。この貴重な体験を今後あらゆる場面で活かしていこうと思います。

中国



北京師範大学構内で

私たちの中国語の力を高めてくれたのだと思います。また、私たちは多くの国の留学生と出会いました。彼らとともに勉強することは、お互いの刺激にもなり、とても楽しかったです。

国際文化学科3年 金田 渚沙

肌で感じた文化と暮らし

実際に中国で中国語を勉強することは、ただ語学を学ぶだけではなく、中国人の生活や文化を肌で感じることもできました。また休みの日には、中国のいろいろなところへ旅行に行き、私たちは北京でとても貴重な体験をする事が出来ました。

最後になります。が、教職員の方々、家族、そして一緒に留学した14人の仲間たちに本当に感謝しています。ありがとうございました。

私たちは8月27日から1月7日までの4カ月余の間、中国に留学し北京師範大学で中国語を学んできました。北京師範大学の授業は日本語を話すことが出来ません。そのため、特に最初の頃はとても辛く、大変でした。しかし徐々にその環境に慣れることが出来ました。こうした環境こそが、私

学内合同企業説明会



251社、学生240人が参加

「平成30年度学内合同企業説明会」を3月14日に、本校体育館で開催しました。本年度も「売り手市場」の就職環境の中で、本格的な就職活動が始まり

期待高まる売り手市場 本格的な就活スタート

「平成30年度学内合同企業説明会」には県内外から251の企業と団体の採用・人事担当者らが多数参加され、3年次生の就職希望者240人が志望業界を中心に訪問しました。採用

担当の皆様からは職場環境や仕事内容の説明、学生からは選考基準など採用に関わる質問をするなど積極的なコミュニケーションを図りました。6月から書類選

「青少年のための科学の祭典」は、理科や数学あるいは科学技術分野の実験や工作を一堂に集め、小・中・高校生らに楽しんでもらうイベントです（日本科学技術振興財団・科学技術館主催）。今年は2月9日、10日の2日間、長岡市のハイブ長岡で開催されました。

青少年のための科学の祭典

本学は、近藤研究室と西山研究室の共同で「光受信機を作ってみよう!!」をテーマに、光通信の基礎実験を出展しました。展示の狙いは、訪れた来場者に自ら光で通信できる驚きと実験の楽しさを感じてもらおうことです。

実験は、来場者1

リモコンの光を聞いてみよう



近藤研究室・西山研究室が出展

組（ほぼ親子）に、参加した本学学生7人のうちの1人を配して対応し、実験のやり方を説明しながら来場者自らが実験を行うようにしました。ブース来場者は途切れることなく、2日間で小学生の親子連れなど169人が来場しました（会場全体では約1700人）。

3) 委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

・(2019年2月19日) 加藤大和、鈴木尊就、内田亨「若者に県内企業関心を高めるための企業紹介冊子作成」インターンシップ・地域活動フォーラム（新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス）

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

・(2019年2月6日) 『日本海新聞』（鳥取県）の新聞記事「拘束長期化を心配 漁船連行1週間」に取材協力（電話インタビュー）

小宮山 智志(経営学科・准教授)

・(2019年3月17日) 「健康づくりイベント」詳細は本誌7ページ（新潟国際情報大学・体育館）

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2019年3月20日) 新潟県シニアカレッジ「まちかどふれ愛英会話」新潟日報サービスセンターキャレル4月号

高木 義和(情報システム学科・教授)

・(2018年12月20日より継続) 2018年度第1回個人情報保護審議会（新潟市役所本館3階）
・(2019年2月12日) 出張講義「朝食の栄養バランスをチェックしよう」（新潟県立高等学校）
・(2019年2月8日～3月8日) 新潟市情報システム再構築業務委託業者選定に係る意見聴取1（新潟国際情報大学）
・(2019年3月20日～4月2日) 新潟市情報システム再構築業務委託業者選定に係る意見聴取2（新潟国際情報大学）

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年2月24日) 『新潟日報』（2月24日付）「[北東アジアを読む] 対中傾斜進むカンボジア民主化が後退の局面に」掲載

共同研究会「人類学・民俗学の学知と国民国家の関係：20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス」（国立民族学博物館）

- ・(2019年1月31日) 「中国貴州省におけるミャオ族の社会階層と配偶者選択：女性の移動が与えた影響に着目して」京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「中国と東南アジアにおける政治経済的変容と女性の移動」第3回研究会議（京都大学）
- ・(2019年2月15日) 「中国と東南アジアにおける政治経済的変容と女性の移動」平成30年度東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」年次研究成果発表会（京都大学）

土屋 翔(経営学科・講師)

- ・(2018年12月) 「佐渡の持続的発展に関する実証研究——循環型農業と学生の力に焦点を当てて——」国際総合研究学会
- ・(2019年1月) 「経営学におけるフレームワークの有用性と限界」研究会 Global Sustainability Institute of Japan
- ・(2019年3月) 調査活動「JA営農指導における概念と実践」JA調査

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

- ・(2018年12月6日) 「カンボジアから考える紛争と平和」2018年度社会科特別授業（敬和学園高等学校）
- ・(2019年1月12日～13日) 「カンボジア：対仏独立運動とシハヌークによる政治権力の独占」科研一般公開研究会／第6回東南アジア比較政治研究会「アジアにおける独裁と民主主義の歴史的起源」（慶應義塾大学）
- ・(2019年1月23日) 「権威主義体制はなぜ、どのように続くのか：カンボジアにおける人民党支配の40年」国際学部スタッフセミナー（新潟国際情報大学）
- ・(2019年2月20日) 「東南アジアに浸透する中国：カンボジアの事例」環日本海懇談会幹事会（万代シルバークホテル）

アークベルグループ	(株)ケー・オー・ケー・ケー	(株)ディー・エス・イー	阪和興業(株)
アークランドサカモト(株)	国分関信越(株)	デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)	(株)ピーエイ
ITX(株)	コクヨ北陸新潟販売(株)	東京コンピュータサービス(株)	(株)BSNアイネット
(株)アイテック	(株)コメリ	東京周波(株)	(株)ビット・エイ
(株)アウトソーシングテクノロジー	(株)コロナ	T-ROOP DANCE COMPANY STUDIO	(株)ビップ
アクシアルリテイリンググループ	コンピュータロン(株)	(株)TOSYS	(株)廣瀬
(株)アクティオ	(株)埼玉英スクール	(株)トッキー	(株)福田組
(株)アジカタ	(株)サカイ引越センター	トップ工業(株)	福田道路(株)
(株)アスカプランニング	(株)坂謙	トヨタカローラ新潟(株)	富士ゼロックス新潟(株)
(株)当間高原リゾート ベルナティオ	佐藤食品工業(株)	トヨタ部品新潟共販(株)	富士ソフト(株)
アニコム損害保険(株)	(株)サンソウシステムズ	(株)トラステック	藤田金属(株)
(株)アミング	(株)三宝	(株)中条ジャムコ	(株)フジミック新潟
(株)イーエムエス新潟	(株)CSコーポレイション	HRTニューオータニ(株)NASPAニューオータニ	(株)富士屋
石本商事(株)	(株)シーロズ関東	7improvementsグループ	(株)PLANT
(株)ヴァティー	(株)ジェイ・イー・ジェイ	新潟運輸(株)	ブリヂストンタイヤジャパン(株)
(株)ウィザップ	(株)JIEC	(株)新潟ブランドホテル	(株)プレスメディア
(株)WELCON	JA越後中央	新潟県警察	(株)北越銀行
ウエルシア薬局(株)	JA佐渡	新潟県警察行政	(株)ホテルオークラ新潟
(株)ウオロク	JA新潟市	新潟県信用組合	(株)マーキュリー
(株)エイジェック	(株)ジェイ・エス・エス	新潟県土地改良事業団体連合会	(株)マイナビ
(株)エイチエー・エス(株)	(株)ジェイマックスソフト	(株)新潟県農協協賛センター	(株)マスターマインド
(株)越起	(株)システムアート	(一社)新潟県労働衛生医学協会	(株)マルタケ
(株)NHC	(株)システムフロンティア	新潟交友事業(株)	(株)丸山自動車
(株)NS・コンピュータサービス	事務機サービスニイガタ(株)	新潟信用金庫	(株)ミツ葉パーツ
(株)NSホールディングス	(株)ジャパンネット	新潟スバル自動車(株)	源川医科器械(株)
(株)NTT東日本・関信越	(株)シリウス	(株)新潟関屋自動車学校	(株)明幸フォーラム
(株)エネサンス新潟	(株)すずのき	新潟総合警備保障(株)	明治フレッシュネットワーク(株)
遠藤工業(株)	(株)ストライプインターナショナル	新潟ダイヤモンド電子(株)	明治安田生命保険(株)
(株)オートパーク	スワロー工業(株)	新潟中央青果(株)	(株)メビウス
大野精工(株)	(株)第一会計コンサルタント	(株)新潟電装	モーターニイガタ(株)
大森電子(株)	瀬賀カイトプラクティクセンター	新潟トヨタ自動車(株)	森井紙器工業(株)
岡三にいがた証券(株)	セコム上信越(株)	新潟トヨペット(株)	(株)モリキ
(株)オタケ	全国共済農業協同組合連合会	(株)新潟日報サービスネット	弥彦村役場
(株)柿生電設	(株)セントラルパートナーズ	日佑電子(株)	ユアサ商事(株)
(株)カシックス	(株)総研システムズ	日東アリマン(株)	ユニー(株)
加茂市役所	(株)ソネット	日本精機(株)	ユニオン建設(株)
(株)カルチロード	(株)第一印刷所	日本郵便(株)	(株)吉田工業
(株)川内自動車	第一建設工業(株)	日本生命保険(株)	(株)ヨドバシカメラ
(株)北村製作所	(株)第一実業	(株)日本ハウスホールディングス	(株)よねー
(株)ギフト	第一生命保険(株)	日本PCサービス(株)	陸上自衛隊
キャンイメーキングシステムズ(株)	(株)大光銀行	ネットトヨタ新潟(株)	リコージャパン(株)
(株)キャン	太平ビルサービス(株)	パーソナルR&D(株)	(株)菱電社
(株)熊谷	(株)高儀	パートナーズプロジェクト税理士法人	(株)レオパレス21
クリナップ(株)	(株)たかだ	(株)ハーモニック	(株)レグラス
グローバルマーケティング(株)	(株)佐武会 武内歯科医院	初穂商事(株)	(株)レックス
群馬精工(株)	(株)田中組	(株)ハニーズ	ワタナベグループ
	中越運送(株)	(株)パパまるハウス	平成31年3月現在(五十音順)

柴山文科相を表敬訪問



柴山昌彦文科相(中央)を囲んで

平成31年1月22日、星野理事長、森副理事長、野崎学長、佐々木専務理事の4名が文部科学省に柴山昌彦文科相を代表して訪問致しました。

柴山大臣には、「本学は創立発起人である故小澤辰男元衆議院議員提唱

による『環日本海拠点都市新潟の地に国際化、情報化の時代に対応できる有為な人材を育成し、地

発展続く本学の現状を報告

星野理事長・野崎学長

教員の活動(本人申告による)

研究 65巻1号(79~95頁)

1) 研究論文・図書

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2018年) Remy Magnier-Watanabe, "The Mediating Role of Subjective Well-Being on Organizational Virtuousness and Job Performance: A Comparison between France and Japan", Journal of Strategic Management Studies, Vol.10 No.1 (5-18)
- ・(2019年) Remy Magnier-Watanabe, "Designing Jobs to Make Employees Happy? Focus on Job Satisfaction First", Social Science Japan Journal, Vol.22 No.1 (85-107)

白井 健二(経営学科・教授)

- ・(2018年12月) "Process-delay model estimation and risk-avoidance method", International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.14 No.6 (2101-2116)
- ・(2019年2月) "Optimal control of production processes that include lead-time delays", International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.15 No.1 (21-37)
- ・(2019年2月) "Propagating the fluid model of production processes with time delay", International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.15 No.1 (91-105)

土屋 翔(経営学科・講師)

- ・(2018年12月) 「経営学における基礎的概念の一考察 ―『栄養失調』な学問としての真髄―」【国際経営論集】29号 (189~221頁)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

- ・(2018年12月) 「アナイス・ニンのバリ、ニューヨーク」水声社 (103頁)
- ・(2019年2月) "Twittering Machie of Paradise: Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Dancers", Anthology of A Café in Space: Anais Nin Literary Journal, 2003-2018. Sky Blue Press, (18-29)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

- ・(2019年1月) 「開発途上のカンボジアにおける人民党支配：国家と社会に浸透する党」『アジア

2) 学会・研究会・講演等

安藤 潤(国際文化学科・准教授)

- ・(2019年2月23日) 講演会基調講演「ポスト冷戦期における日米防衛支出の実証分析」冷戦研究会第49回例会(東京大学・駒場キャンパス)

區 建英(国際文化学科・教授)

- ・(2019年3月1日~2日) 「日本の歴史意識における『永遠と時間』―丸山眞男『古層』論の視点から―」台湾師範大学・名古屋大学共催「東亜思想交流史」国際シンポジウム(台北文徳書院)

小宮山 智志(経営学科・准教授)

- ・(2018年12月16日) 講師「新発田のインバウンド・アウトバウンドと台湾」平成30年度国際理解セミナーアジアを知る(新発田市生涯学習センター・多目的ホール)
- ・(2019年2月19日) 分科会「地域の課題解決」ファシリテーター インターンシップ・地域活動フォーラム(文部科学省 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 NIIGATA COC+)(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)
- ・(2019年3月13日) 「地域産業活性化に向けた取り組み等について」巻総CHAT講演会(巻総合高等学校)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

- ・(2019年1月12日) 「新潟らしい『おもてなし』とは?―街の魅力再発見・もてなす心、極意を達人に学ぶ―」開港150周年記念事業 文化講演会 第3回「おもてなし 英会話」(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

- ・(2018年12月27日) 「中国民族学界における鳥居龍蔵の調査・研究への評価」国立民族学博物館

平成30年度

卒業式

学長式辞



新潟国際情報大学
学長 野崎 茂

後の難関を乗り越えた安堵感、順風満帆の中これから始まる新しい日々、前途洋々と広がる高揚感で溢れていることでしょう。高浜虚子にこんな俳句があります。

「運命は 笑い待ちをり 卒業す」。

如何でしょうか。我が意を得たりと思つておられる方も多いのではないのでしょうか。

でもここで少し立ち止まって振り返つてみてください。1990年代末から2000年代前半にかけて「就職氷河期」と呼ばれた時代がありました。丁度本学が設立され卒業生を送り出し始めた頃です。1998年3月卒業の第一期生は97%という高い就職率を達成したものの、その後は201

「顧みての微笑み」忘れずに

活かせる人のネットワーク

皆さんは平成という元号における本学最後の卒業生であり、昨年4月に学長に就任した私にとつては最初に送り出す卒業生ということ、私自身感慨新たに本日の式に臨んでおります。新潟国際情報大学は本年創立25周年を迎えますが、これまでに皆さんを含めて6369名の卒業生を送り出して参りました。卒業生の中には既に社会のリーダーとして、あるいは中堅の働き手として活躍中の人々も数多くおられます。皆さん方はその背中を見ながらこれまで過ごして来たものと思います。これから皆さんが後輩たちにその背中を見せて行く役回りとなります。

学位記を手にした皆さんはこれまで四年間を過ごして来たみずき野キャンパスでの日々を今どんな気持ちで振り返つておられることでしょう。楽しかったこと、苦しかったこと、試験、卒業研究、卒論という最

ます。そんな時に頼りになるのは相談することの出来る「人」です。ご家族や友人、先輩、後輩、教師といった「人のネットワーク」です。多方面に広がった「人のネットワーク」、それは資産です。それは多ければ多い程、広ければ広い程いい。そうした「人のネットワーク」という資産の筆頭に来るであろうものは「同窓会のネットワーク」です。そして本学のそれは先程述べましたように今や6000名を超える資産に成長しております。

先日の新潟日報の「写真今昔」という欄に平成6年（1994年）2月のアーカイブ記事が、受験会場の雰囲気伝える写真と共に掲載されておりました。記事曰く「満席マンモス会場——新設された新潟国際情報大の前期入試が新潟市産業振興セ

ちのためにも。先程ご紹介した高浜虚子はこんな句も残しております。

「一を知つて 二を知らぬなり 卒業す」。

如何でしょうか、皆さんにそんな自覚はあるのでしょうか。

そうです。思うに皆さんは『半分、青い』どころか「まだまだ青い」未完の若者です。ただそれは取りも直さず伸びしろがあるということ。この伸びしろを仮想のものではなく、具体的な実体のある成果物として、自分のもの、自分の力として行くためには、これからも学び続けて行く必要があります。皆さんにはこれからも学び続けるための土台や基礎が出来ているはず。皆さんはそれを本学で学んだことにより獲得しているはず。その上に、これからの学び続けることによって始めて実体のある成果物が積み上がり始めるはず。これもまた大きければ大きい程いい。平山前学長も「インド独立の父」マハトマ・ガンジーの「明日死ぬと思つて生きなさい。永遠に生きると思つて学びなさい。」という言葉をよく引用しておられました。自らの現在の姿や限界を知つて、そこから伸びようとすることで一步一步の前進が始まります。皆さんは新しい社会を創る、新潟の、あるいはそれぞれの活動の拠点とするであろう地域の未来を創る担い手として、大いに期待されております。そのためにもこれからも学び続けてください。そしてそのために卒業後も母校である新潟国際情報大学を、同窓会と併せて存分に活用ください。訪ねて見てください。

また、皆さんが今日あるはご家族、友人、先生、先輩、後輩、周囲の色々な人たちが温かく支えてくれたからこそであります。そうした皆さんの篤い支援に私からも感謝申し上げます。卒業生の皆さんにあつては、そうした方々に今日の良き日にあらためて感謝の気持ちを伝えてください。こ

れからもそうした方々とのつながりを大切にして行ってください。

「顧みての微笑み」という言葉があります。曾て、海軍経理学校で語り継がれた言葉という人もありますが、正確な出所は詳らかではありません。本日、学位記を手にした皆さんはこれまで過ごして来た日々を微笑みと共に、あるいは満面の笑みと共にでしょうか、振り返っておられるものと思います。皆さんはいずれまた何年か、ある

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 星野 元

新潟国際情報大学の第22回卒業式を迎えられました284名の皆さん、卒業おめでとうございます。併せてご列席のご父母の皆様、心からお祝いとお喜びを申し上げます。いま、立派に成長して巣立つ元気な卒業生の姿を前にして、さぞかし感無量のひとと拝察いたします。また、年度末のお忙しい中、多数ご臨席をいただきましたご来賓の皆様、誠に有難うございます。厚く御礼申し上げます。

大学の設置者であります学校法人新潟平成学院を代表して一言祝辞を申し上げます。

今、みずき野のキャンパスでは桜のつばみも膨らみ始め、いつもと変わらない春の風景が巡ってきました。皆さんは卒業式を迎えた今、何を思い、振り返っていることでしょうか。あつという間の4年間だったのではないのでしょうか。皆さんの中には、大学とは何をすべきところか、そうしたこ

いは何十年後に自分たちが歩んで来た途を振り返って見ることでしよう。それまでの道のりにおいて幾多の困難に遭遇するものと思われまます。微笑みどころではない状態に陥ることも多々あるものと思われまます。ただ何らかの区切りを付けようとする時、あるいは新しい生活を始めようとする時、人生の大きな転換点に差し掛かった時に、それまでの来し方を振り返ってみる。その時に「自分は最善を尽くして来た。そ

とを深く考えず、高校の延長のような気持ちで進学した人も多いのではありませんか。振り返れば50年以上も前の私自身がまさにそうでした。しっかりと目的意識を持って大学に進んだ学生は、案外少ないのではないのでしょうか。失礼なことですがそんな風に推測しています。

もともと大学はあれこれ迷いながら自分なりの考えで自由に知識とか経験を身につける場所ですから、それはそれとして構わないとは思いますが。ただ、これから先は皆さん、違います。漫然と実社会に入り生きていくことは許されません。自分はこれか

自ら進んで「輪」をつくろう

らどうという人生を歩みたいのか、生きていきたいのか、いったい何をするのか、したいのか、組織や社会でどう役立っているのか等、きちんと深く考えて早いうちに答えというか目標を固めてほしいと願っています。

5月から新しい元号の時代を迎えますが、皆さんには否応なしに厳しく、生きづらい時代が待ち構え、大きな危険も想定しなければなりません。毎年卒業式の際に同じようなことを話していますが、時代は確実に困難な方向に向かって動いています。極端な自然現象に伴う大規模災害の多

してそれは間違っていない。正しかったのだ。」と微笑みを以てそれを総括することが出来るのかどうか。そして、もちろんそのような大きな節目だけではありません。毎日の暮らし、日々の営みの中で、ほっと一息ついて自らの行いを振り返ってみる、むしろそうした場面で思い出していただきたい言葉だと思っていますが、それらのいずれの時ににおいても、願わくば微笑みを以て、その中には苦笑が混じっている

発をはじめ地震のたびに身構えざるを得ないメルトダウンしたままの福島第一原発のこと、人口減、超高齢化と福祉の行方等々。そして世界では終わることのない分断と分裂と対立。人種や民族、宗教間の対立紛争は、むしろ激化しているように見えます。卒業生の皆さんは、こうした「不安と逆境の時代」を避けては通れないのです。極めて生きにくい、辛い世の中を渡っていくかなければなりません。こうした事実をしつかりと踏まえて、決して逆境に対してひるまない、たじろがない強い決意と覚悟をもって人生を生き抜いて行つてほしい

と願っています。強い心や覚悟を身につけるといふことは、かなり難しいことではあります。結局のところ、自分で自分を磨き、自分で自分を鍛えることからしか生まれません。そのことを特に強調しておきたいと思っています。

平成6年に開学した新潟国際情報大学は、新年度、創立25周年の節目を迎えます。間もなく入学してきます第26回新入生たちは、新しい元号の時代を目前に学生生活の第一歩を踏み出すことになるわけですが、今年に入試志願者が、昨年に引き続き一千人の大台を突破して、開学以来4番目

いいでしょう、総括が出来ようになつていただきたい。私自身はそうありたいと思つておりますし、皆さんにおかれましても是非そうした日々を送つて行つていただきたいと願っております。

錢の言葉としてはややもすれば簡素清浄過ぎる言葉かも知れませんが、皆さんのこれからの人生が幸多かれと祈りつつ私からの祝いの言葉と致します。

に多い記録となつたことも嬉しいニュースのひとつとなりました。このことはこれまでに、本学で汗を流された多くの先輩を含む教職員はじめご父母の皆様、地域の方々、そして同窓生の皆さんから25年の歴史の中で積み上げていただいた本学の「価値」が、まさに高く評価され、証明されたものと有難く感謝している次第です。とりわけ本学卒業の同窓生は、昨年度で6083人を数えましたが、こうした同窓生の実社会における活躍ぶりが、地域や企業から評価され、志願者増の大きな要因になっているものと考えております。本日ここに卒業される皆さんもこうしたことを強く意識して、これから先輩たちとの絆を深め、併せて母校への支援、協力をお願いしたいものと期待しております。

最後に「あなたは輪をつくれますか」という問いかけで締めくくりに言葉といたします。「輪つか」の「輪」を皆さんは作れるかということです。「逆境」に直面する時代のなかでは、ひと握りの優れた人間がいても降りかかる難題を解決、突破する力にはなり得ません。一人ひとりが手を繋ぎ合い、スクラムを組み、共に助け合うことがより重要になってきます。あなたたちは、これから実社会に入つて組織や社会の現場で一人ひとり自ら進んで「輪」をつくる人間、つくられる人間になつてほしいと強く願っております。



〈総代〉国際文化学科
本間 千華

学びを糧に前へ

冬の厳しい寒さも和らぎ、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日は、教職員をはじめ、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙行いただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

4年前の春、慣れないスーツに身を包み、この先の大学生活に大きな不安と期待を抱いていた私たちは今、早すぎる時の流れを惜しみながらも、充実した大学生生活の思い出に浸っています。

新潟国際情報大学は、私に大きく二つの財産を与えてくれました。

一つは学問の奥深さに気づけたことです。選択した英語集中コースでは、英語という言語が人との縁をつくり、自分自身を成長させてくれる力を持っていることに気づくことができました。4年間で身につけた英語スキルは、新たな文化や歴史を知り、自身の知見を広めてくれるものとなっています。また国際協力を専門に研究するゼミナールでは、貧しさの生まれるしくみや現状、支援のあり方などを学びました。日常生活における私の意識や行動も自己中心から世界中心へと変わり、ゼミでの学びが影響されていることを実感しています。

そして二つ目は、心から信頼できる先生方、友人たちと出会えたことです。英語を基礎から教えていただいた先生、厳しく愛のある卒業論文の指導をしていただいた先生はもちろん、アメリカへの派遣留学、サークルでのイベント活動、卒業論文の執筆、私生活など、私はいつでも互いに高め合える友人たちに恵まれました。皆さんと出会い、強い信頼関係を築けたことを心の底から誇りに思っています。

正直今は寂しい気持ちでいっぱいですが、今、目の前に座っている284人の卒業生一人一人が、これから自分で決めた道を自分の足で歩いていきます。たとえこの先様々な困難に遭遇しても、その都度、大学での学びを糧にその困難を乗り越え、成長できるよう励んでいきます。

最後になりましたが、改めて、学問の面白さを教えてくださった先生方、充実した学生生活を共につくってくれた友人たち、そして大学に通わせてくれた家族に心から感謝致します。本当にありがとうございます。今後の後輩の活躍と新潟国際情報大学の発展を願い、答辞とさせていただきます。

祝電

順不同

日本私立大学協会	会長	大沼 淳様
新潟県 知事		花角 英世様
新潟市 市長		中原 八一様
新潟商工会議所	会頭	福田 勝之様
セコム上信越株式会社	代表取締役会長	野沢 慎吾様
株式会社総研システムズ	代表取締役	清水 保様
ALSO K		
新潟総合警備保障株式会社	代表取締役社長	廣田 幹人様
株式会社マリイ	代表取締役	清水 辰雄様

退職教員 あいさつ



4月1日から佛教大学社会学部公共政策学科に異動いたしました。19年間、お世話になりました。いろいろお伝えしたいことはありますが、最後に山口百恵の『さよならの向う側』の歌詞を添えて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

さよならのかわりに

国際文化学科 准教授 安藤 潤

あなたの燃える手／あなたの口づけ
あなたのぬくもり／あなたのすべてを
きっと／私／忘れません
後姿／みないてください
Thank you for your kindness
Thank you for your tenderness
Thank you for your smile
Thank you for your love
Thank you for your everything
さよならのかわりに



オオミスミ草のように

情報システム学科教授 近藤 進

縁あって2001年から、教職員の皆さん、学生の皆さんと楽しい時を過ごさせていただきました。情報システムではハードウェアを担当しましたが、製作に興味を持つ学生の多いことが印象に残っております。また、通信と防災については地域の多くの方々のご協力をいただきました。角田山のオオミスミソウは、種子が落ちて花が咲くまで4年かかります。そしてどれ一つ同じ花はありません。雪を割って蓄みを持ち上げ、一面に咲く花を楽しみにしております。



寝食を共にした思い出

経営学科教授 岸野 清孝

30年間勤めた日立を退職して、2004年4月から15年間勤めた本学を退官します。本学は私にとって初めての教員経験でした。これまで訪れたことのない新潟の地に期待と不安を抱えて単身赴任しましたが、素晴らしい教育環境と学生たちに出会え、充実した教員生活が送れました。韓国、北海道、京都、大阪（USJ）、東京（スカイツリー）、さらにビール工場見学等のゼミ旅行を行い、寝食を共にした楽しい思い出を得ることができました。今後は彦根市の自宅に戻ります。新潟国際情報大学が、ますます魅力的な大学になることを祈りしています。

満足のいく高校生活を送ると、学びたいものに会えなかった私にとって、この4年間の大学生活は、中国語の習得、海外留学等もすごく充実したものでありました。

大学生活のすべてが宝物

国際文化学科 藤巻直也

大学の中でさまざまな分野のものに触れることで、不明瞭だった自分の本当の姿を見つけることが出来た。自分がやりたいこと

私はコンピュータを使うことが好きで、その知識をさらに高めたいと思い本学に入学しました。

育まれたチャレンジ精神

情報システム学科 渡邊美里

を後押ししてくれる大学の環境は私に非常に合っています。今後社会に出てから、授業の内容から発展し、小型コンピュータを使用したコンテストへ出場することなどに繋がります。

やりたいことも正確に決まらないうちに入学しました。抱いていた想像以上に勉学に励むことができたと思います。

街歩きで学ぶ楽しさ発見

情報システム学科 松田一希

大学ではマーケティングに関心を持ち懸命に取り組みました。中央区での街歩きプロジェクト、シンガポールでの研修には考えるこ

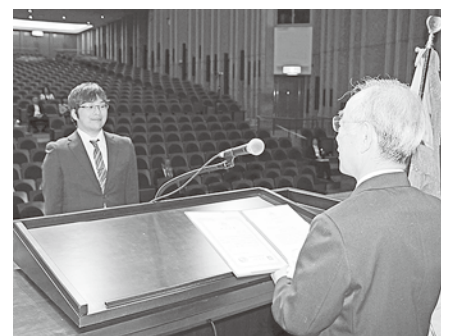
私の大学生活の4年間で「国際交流」という言葉なしでは語ることができません。青少年国際交流や通訳のボランティア、二回の口

見つけた国際交流の課題

国際文化学科 齋藤優里愛

シア留学、国際交流ファシリテーター事業、そして卒業論文。これらはすべて、私個人の力ではなく、たくさんの方々の理解と協力によって成し遂げることがで

JABEE認定プログラム 23人に修了証書授与



卒業式に先立ち、JABEE（日本技術者教育認定機構）で認定されている、情報システム技術プログラムの修了証書授与式が行われました。修了生23名は学長から一

人ずつ修了証書を授与されました。JABEE修了生は、世界に通用する教育を受けた技術者とみなされます。また、国家資格である技術士の第一次試験免除の優遇措置が受けられます。



第22回までの卒業生は合計6,369人に

年 度	卒業生数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第1回)	295人	116人	179人
10年度(第2回)	290人	124人	166人
11年度(第3回)	303人	126人	177人
12年度(第4回)	294人	116人	178人
13年度(第5回)	291人	118人	173人
14年度(第6回)	277人	111人	166人
15年度(第7回)	314人	118人	196人
16年度(第8回)	294人	115人	179人
17年度(第9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
24年度(第16回)	294人	113人	181人
25年度(第17回)	291人	124人	167人
26年度(第18回)	278人	107人	171人
27年度(第19回)	269人	124人	145人
28年度(第20回)	288人	114人	174人
年 度	卒業生数	国際文化学科	情報システム学科
29年度(第21回)	282人	106人	176人
30年度(第22回)	286人	110人	176人
合 計	6,369人	2,548人	3,821人

※9月卒業生含む

学びを糧に学窓巣立つ

平成30年度(第22回)卒業式が3月21日、新潟県民会館大ホールで行われ、284人(国際学部108人、情報文化学部176人)が、新たに社会へ巣立ちました。

学位記授与式のと野崎茂学長は「皆さんは新しい新潟の、あるいは地域の未来を創る担い手として大いに期待されています。一歩一歩前進するためにこれから学び続けてください」と式辞を述べ、饗に「顧みての微笑み」という言葉を贈りました。

「皆さんは新しい新潟の、あるいは地域の未来を創る担い手として大いに期待されています。一歩一歩前進するためにこれから学び続けてください」と式辞を述べ、饗に「顧みての微笑み」という言葉を贈りました。

「皆さんは新しい新潟の、あるいは地域の未来を創る担い手として大いに期待されています。一歩一歩前進するためにこれから学び続けてください」と式辞を述べ、饗に「顧みての微笑み」という言葉を贈りました。

「皆さんは新しい新潟の、あるいは地域の未来を創る担い手として大いに期待されています。一歩一歩前進するためにこれから学び続けてください」と式辞を述べ、饗に「顧みての微笑み」という言葉を贈りました。

平成30年度
卒業生特別表彰

学長賞(学業成績優秀者)

国際文化学科(総代) 本間千華

情報システム学科 六本木瑞季

課外活動賞

情報システム学科 小池優太

フィットネス研究部でパワーリフティングの競技力向上に励み、第72回国体出場を果たすなど優秀な成績を修めた。

学術賞

情報システム学科 小山裕也

ファイナンシャル・プランニング技能検定2級、品質管理検定2級に合格するなど資格取得に向け努力し、優秀な成績を修めた。

国際文化学科 伊藤雄大

TOEIC730点以上取得および実用英語技能検定準1級に合格するなど優秀な成績を修めた。

国際文化学科

大滝理奈

齋藤優菜

山口 凪子

国際文化学科 佐々木花純

韓国語能力試験4級およびハングル能力検定試験準2級に合格するなど優秀な成績を修めた。

国際交流賞

国際文化学科

齋藤 優里愛

加茂市国際交流協会によるロシア姉妹都市交流事業のロシア語通訳補助や運営ボランティアとして活躍するなど国際交流活動に尽力した。

地域交流賞

情報システム学科

磯貝 尚輝

赤塚地域のガイドブック作成に参加し、「新潟砂丘遊々会」事務局として砂丘清掃活動の企画・運営を行い、地域活性化および佐潟・新潟砂丘のPRに貢献した。

笹山じょうもんチーム

情報システム学科

小池 優太

十日町市の笹山縄文遺跡で開催される「笹山じょうもん市」で、複数のイベントの企画・運営を行ったほか、赤塚地域でも関連イベントを実施して縄文文化を発信し地域に貢献した。

情報システム学科

小林 直起

新潟市西区内野商店街で2年以上にわたり産官学連携による地域活性化の研究に取り組み、若者誘客のイベント誘致や政策提言を行うなど同地区活性化に寄与した。

情報システム学科

田中 祐多

新潟市中心市街地の活性化を図るためスマートフォンを用いた「まちあるき」のビジネスモデルを構築してイベントを実施したほか、同市の提言フォーラムでは、就活ストレス解消の取組みで優秀賞を受賞。地域活性化に寄与した。